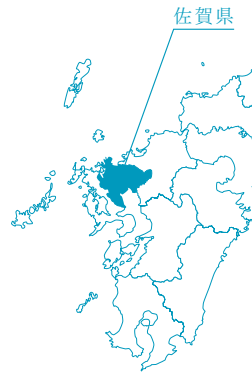


# さがぐらし 第1回

佐賀だからこそ出会える風景や魅力ある人物を4回にわたってお届けします。  
第1回は、佐賀インターナショナルバルーンフェスタとハレノヒ柳町フォトスタジオの笠原徹さんです。

文：西郡幸子 写真：橋渡新一



## 佐賀県ってこんなところ

食、歴史、文化など、数多くの魅力をもつ佐賀県。国内最大級の環壕集落跡「吉野ヶ里遺跡」をはじめ、日本の近代化を牽引した佐賀藩海軍の拠点「三重津海軍所跡」（世界遺産）など、歴史マニア垂涎のスポットも多数。そのほか、日本の磁器発祥の地「有田焼」、日本一の生産量を誇る「佐賀海苔」やブランド牛の「佐賀牛」、特A評価の県産米「さがびより」に「呼子のイカ」など、バラエティに富む。全国幸福度ランキング5位。



毎年10月末から11月上旬にかけて、佐賀の上空が100機以上の熱気球で美しく彩られる。

## TURN'S カフェさが 開催

**開催日** 2016年9月10日(土) 11:00 ~ 14:00  
※10:30 ~ 受付開始

佐賀で活躍する3人のゲストを迎え、佐賀の暮らし・仕事・子育て・食を知るイベントを開催します。佐賀の食材を使ったランチもご用意しています。キッズスペースも設置していますので、子育て中のパパ・ママもぜひご参加ください。

《会場》 中目黒ピオキッチンスタジオ 東京都目黒区上目黒1-13-14  
《参加費》 500円

《ゲスト》 ①佐賀市：ハレノヒ柳町フォトスタジオ 笠原徹さん  
②武雄市：おかわりのうえん 境郁美さん  
③有田町：地域おこし協力隊 佐々木元康さん

お申し込み・詳細は  
TURN'S WEB <http://www.turns.jp> をご覧ください

## 〈イベント〉 毎年約100万人が参加！ 佐賀バルーンフェスタ

「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」は、佐賀県嘉瀬川河川敷で行われるアジア最大の熱気球イベントで、正式な熱気球の国際大会でもある。今年なんと世界選手権の開催地に決定！ 佐賀が開催地になるのは、今回で3回目だ。

なかでも毎年人気なのは、競技開始時の一斉離陸。おびただしい数の熱気球が次々と飛び立つ姿は圧巻！ パーナーの炎で美しく輝く「夜間係留」も、幻想的で一見の価値あり。地元グルメが満載でさる飲食売店コーナーや気球体験教室などもあり、老若男女が楽しめる。開催中はJR長崎本線「バルーンさが」駅を臨時開設。ぜひ今年の秋は、佐賀で熱気球の世界を堪能して！

（インタビュー）  
 都会との「余白」を埋める起業で  
 佐賀に「古民家写真館」が誕生！

妻の出身地・佐賀へ  
 大阪から移住

佐賀市の中心市街地に突如現れ、古きよき街並みを残す柳町地区。築約100年の履物問屋「旧久富家住宅」を、佐賀市が「古民家再生プロジェクト」の一環でリノベーションした。その建物を活用し、昨年2月に写真館「ハレノヒ柳町フォトスタジオ」を立ち上げたのが、フォトグラファターの笠原徹さんである。

千葉県出身の笠原さんは、大学卒業後、大阪市内でブランド関係の大手写真会社に勤務。13年前、妻の出身地の佐賀市に移住した。「妻の美家がカメラ関係の仕事だったので、当初は手伝う目的で、大阪を離れることに、とくに迷いはなかったですね」

その後、市内の写真館やウェディング業界で働くも、都会とのサビのの違いなどについて目が向いてしまい、悶々とした毎日が続く。そんな日々を打破すべく、「自分の力でいまできることは何か」



（上）左から副島智子さん、笠原徹さん、田代麻由子さん、菊地雄太さん。（左下）ハレノヒ作品集。「いままて2000組以上のカップルを撮影。そのどれもが印象深い」（下中）大きな梁がむき出しの趣あるスタジオ。（右下）築100年、重厚感漂う外観。

ハレノヒ柳町フォトスタジオ  
 笠原徹さん

1975年、千葉県生まれ。（社）日本ウエディングフォトクラファーズ協会副理事長。大手婚挙写真会社を経て独立、2015年スタジオ設立。「AERA」など雑誌やテレビ、新聞でも多数取り上げられ、講師としても活躍。9月にはキャンノHPの「フォトソリューションレポート」で紹介される。

を考えたすえ、たどりついた答えは「起業」の二字だった。

「まず、自分が消費者の立場に立って考えたときに、客として行きたいと思える写真館が佐賀にはなかった。もしかしたら、自分と同じ感覚の都会経験者が佐賀には多くいるのではないか。そんな人たちのためにも選択肢を増やすと同時に、都会と佐賀との「余白」を埋めることにこそ、自分の力が発揮できる場所があるはず」

そう考えた笠原さんは、「佐賀ライフには満足しているが、たまには都会的なものにも触れたい層」向けに、佐賀市内に写真館をつくらうと決意。幸運にもこの古民家プロジェクトの募集があり、「ハレノヒ柳町フォトスタジオ」はオープンを迎えた。

子育て世代にもやさしい  
 起業もしやすい環境

笠原さんの「余白」狙いは、見事的中。U・J・ーターン組だけでなく、おしゃれに敏感な地元の若者夫婦が次々とハレノヒを訪れ



笠原さんに  
さがぐらしについて  
聞きました

佐賀に来てよかったと  
思える瞬間は？

まさに「いま、です！ 以前読んだ本のなかに「過去が未来を変えるのではなく、未来が過去を変えるのだ」という一節があり、とても気に入っています。まさにこの言葉通り、「いま、の状態がとても気に入っているからこそ、佐賀に来てからのことがすべてよかった、そしてこれからも……と感じています。

佐賀に住んでみて、  
意外だったことは？

佐賀は災害が少ないとか、食べ物おいしいとか、女性がかいとか、よく言われていますが、じつは交通の便がいいところも魅力です！ 福岡市内までは、電車で40分。東京へも飛行機で、2時間あれば、着いちゃう。佐賀に住みながらも、東京や福岡といった大都市へすぐに行けちゃうんです。これって都会の通勤圏内ですよ。

ファインダーを通して見る  
佐賀の人はどんな感じ？

佐賀県人は、とにかく家族の仲がいい。会ったことのない親戚がいる、というのを都会ではよく耳にしますが、佐賀では聞かない。記念の写真を撮るときは家族だけでなく、親戚も一緒についてこられる。人と人のつながりが強いということが佐賀の魅力なのかもしれません。

これから佐賀へ移住を考えて  
いる方にひとことお願いします！

自分のやりたいこと一からじっくり取り組める土壌が佐賀にはあります。仕事はつくればいいんです。まずは自分だったら何が欲しいか、何が佐賀に足りないか、その「余白」を考えれば、おのずと同世代の人の心をつかむ起業ができると思います。「田舎のくせに」がチャンス。独自ブランドを生むんです！

「さがぐらし」が気になったら、  
お気軽に「さが移住サポートデスク」へ

佐賀で暮らしたい、働きたいと思ったら、「さが移住サポートデスク」をぜひご活用ください。移住全般に関する相談（就職・暮らしなど）をワンストップでお受けしております。

さが移住サポートデスク 佐賀  
佐賀市城内一丁目1番59号 佐賀県庁新行政棟 1階  
☎ 0952-25-7551  
✉ sagaiju@pref.saga.lg.jp

さが移住サポートデスク 東京  
東京都千代田区有楽町2-10-11 東京交通会館 8階  
ふるさと回帰支援センター内  
☎ 090-1657-8205  
✉ saga@furusatokaiki.net



てくれるように。  
「訪れる方がそろうって口にしてくださる言葉が、写真館なおしやれ」自分のイメージしていた写真館と違う。この「ギャップ」をうまく利用して、写真館自体に興味をもってもらい、従来の写真館のイメージを変えるチャレンジをしていきたいんです」  
惹きつけられるのは顧客だけではない。開業1年でフォトグラフィが2名増えた。いずれも東京からの移住者である。その一人、副島智子さんは東京出身、結婚を機に佐賀に移住。2歳の男の子を育てるママでもある。  
「佐賀は、子ども3人以上の家庭の割合が全国トップクラス！ そのおかげか、とにかく子育て環境がいいですね。待機児童が格段に少なく、働くママにもやさしい環境。子育てサークルも多く、地縁



(上) 人見知りな子どもはその場に慣れるまで待つなど、<sup>①</sup>状態、を見極め撮影。(中右)「どんなストーリーで撮影するか、を考えるのが好き」と笠原さん。(中左) 雑貨の展示、販売する店頭のギャラリー。(下右) ハレノヒ作品。佐賀県人とはとにかく家族の仲がいい。(下左)「雄大な佐賀平野」は、笠原さんのお気に入りの佐賀の風景。

がない人でも気軽にママ友づくりや子育ての悩みを相談できるし。園庭や公園も広く自然も身近で息子のびのび成長中。旬の新鮮野菜が食べられるのも幸せですね」  
移住者目線で語りあえる同僚も得て、ますます活躍中の笠原さん。  
「都会より、地方のほうが起業に向いている気がしますね。都会と同じことをしていても、田舎なのに新しいチャレンジをしている」とすぐに注目されるんです(笑)。  
起業前より多忙な生活ですが、幸福度は数倍です」  
写真館での「幸せな1枚」が世界の平和につながる——そんな「ハレノヒ」を発信しつづけたい、と語る笠原さんの目は、佐賀から日本、そして世界に向いている。